

診療科紹介
大腸・肛門外科

ダビンチによる直腸癌手術について

大腸・肛門外科 教授
石原 聡一郎

大腸・肛門外科科長の石原でございます。本邦において依然として増え続けている大腸癌の約40%は直腸に生じますが、解剖学的に骨盤の深部に存在するために外科的なアプローチが困難で、泌尿・生殖器へ分布する自律神経と近接し、肛門とも近いことから術後に排便・排尿・性功能障害を生じやすく、手術に際しては癌の根治性と術後QOLの両立が求められます。最近注目されている手術用ロボット(ダビンチ、図1)は直腸癌の手術に適しているとされ、2018年4月に保険適応となっています。

東大病院ではこのダビンチをいち早く導入し、大腸・肛門外科では保険適応より前の2012年に直腸癌に対してロボット手術を開始して、これまでに250例以上の直腸癌ロボット手術を行い、国内有数の実績を有しております。2021年からは2台目のロボットが導入され、現在大腸・肛門外科では週2件

のペースで直腸癌ロボット手術を行っております。

手術は主にロボット手術の指導資格(日本内視鏡外科学会ロボット支援手術プロクター)を有する経験豊富な専門医によって行われており、91%の直腸癌に対して肛門を温存した手術を行い、生命予後も5年全生存率は92%と非常に良好な結果です。

図2にお示ししますような高度に進行した直腸癌に対しては、術前に化学放射線療法を行い腫瘍の縮小を待って手術を行います。このような場合にもロボットは正確な操作が可能であることから、ロボット手術を行い良好な成績を得ております。

さらに我々は大学病院の使命として、ロボット手術の安全性と有効性をさらに高めるために東京大学工学部と連携して手術ナビゲーションの開発を行っており、またさまざまな術中モニタリングの技術開発を行っております。

今後大腸癌をはじめとする大腸・肛門疾患の診療を通して地域医療に貢献していく所存ですので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

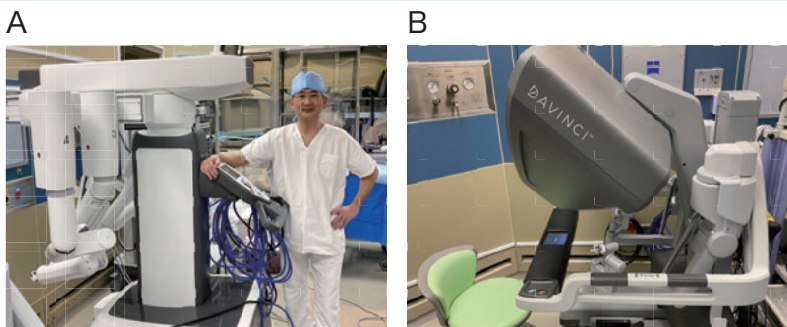


図1 A 患者カート

図1 B 手術コンソール

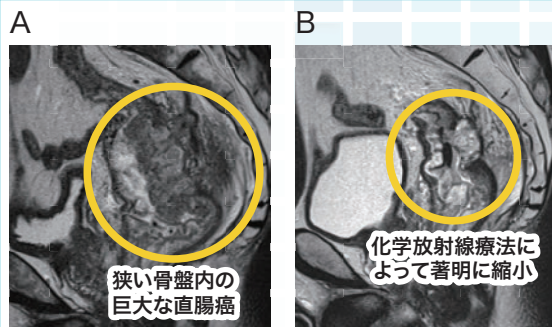


図2 A 治療開始前

図2 B 術前化学放射線療法後

『病院間後方支援コンソーシアム』

都内の病院限定です。

Post コロナ患者の受け入れにご協力いただける後方支援病院を募集しています。

東京医科歯科大学医学部附属病院、日本医科大学付属病院、東京大学医学部附属病院が連携して行っている後方支援のコンソーシアムです。

- ①あらかじめ病院の役割に沿った受け入れ患者をご登録ください。
- ②東京都から患者1名毎に謝金を受け取れます。ご興味のある方は、covid-19renkei@adm.h.u-tokyo.ac.jp、03-5800-9003(東大病院内事務局)へご連絡ください。詳しい資料をお送り致します。



本郷耳鼻咽喉科クリニック

院長:木村 美和子

所在地:東京都文京区本郷4-2-8 フローラビルディング2階

TEL:03-5689-4133

当院は2013年、文京区本郷に開業しました。通常の耳鼻咽喉科の診療と共に、音声・言語の診療に力を入れています。開業当初から言語聴覚士を雇用しており、現在では、常勤言語聴覚士2名、非常勤言語聴覚士2名と共に診療にあたっています。音声言語外来の新患登録数は1000名近くとなり、8割が子供の構音障害です。残りの2割は成人の構音、嚥下、失語、音声など様々です。1か月で平均して延べ人数100名程度のリハビリをおこなっています。最近、このコロナ禍で耳鼻咽喉科医の往診や、言語聴覚士の訪問リハビリの需要が増えていて、昼休みなどを利用して往診や訪問も行っています。

当院で扱っている子供の構音障害は大半が機能性構音障害です。機能性構音障害は原因が特にありませんが、構音(一般的に発音と表現されます)が誤っている状態ですので、一見特に問題のなさそうなお子さんが、滑舌がおかしい、発音が変、音が置き換わっている(「きり

ん」が「ちりん」になっているなど)、自分の名前がうまく伝わらないなど、様々な訴えで受診されます。機能性構音障害の子供達は、適正な時期に受診して言語聴覚士の指示通りまじめに練習した子は(発達に問題が無ければ)、正常の構音になって卒業していきます。リハビリ最終日にスタッフ全員で拍手して「おめでとう!よくがんばったね!」と卒業を祝福する「リハビリ卒業式」をしていて、開業医として最もうれしい瞬間の一つです。



医療法人社団M-TAC 文京整形外科

院長:森下 実

所在地:東京都文京区千石1-27-8 千石ビル3階

TEL:03-5940-3123

文京整形外科です。整形外科専門医・リウマチ専門医・指導医として多くの患者様の治療にあたって参りました。この経験を生かし、今後は地域の患者様の心の支えとなるよう頑張ってお参ります。

当院の特徴は、診断・治療に超音波診断装置(エコー)をよく使うことです。エコーの良さは、レントゲンでは見えないところが見える事(すじや関節の中) 放射線被ばくがない事(お子さんや妊婦さんでもできます。)また、エコーを用いる事で安全で確実な注射ができます。エコーを用いて『わかりやすい説明』、『的確な診断と治療』そして『迅速な症状改善』を心がけていきます。

私は整形外科専門医・リウマチ専門医ではありますが、内科的疾患や外科的疾患など皆様の病気に関するお悩み事がありましたら是非ご相談ください。真摯に対応させていただきます。

私たちは、当院へ来てよかったと思われるクリニック、そして『言い

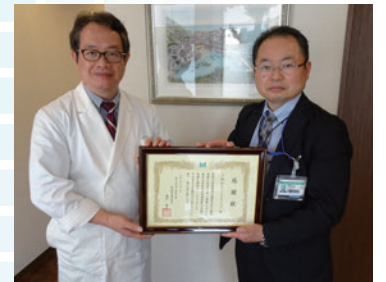
にくかった!言い忘れた!』のクリニックを目指し、スタッフ一同頑張っていきますので宜しくお願いいたします。



感謝状の贈呈を行いました

日頃より当院との医療連携にご高配いただき、誠にありがとうございます。このたび、特に多数の患者さんを御紹介いただいた医療機関様へ、感謝状の贈呈をさせていただきました。

今後とも、皆様のご理解、ご協力を賜りながら、引き続き地域医療連携を推進して参りたいと考えております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



【お知らせ】令和3年度の診療体制について

令和3年の診療体制について、同一週内に2度の休診日があること及び同一曜日が2週続けて祝日になることを鑑み、令和3年9月20日(月)、令和4年1月10日(月)を開院し、通常の平日と同程度の診療体制(外来・入院)を確保しますのでお知らせいたします。

診療日:令和3年9月20日(月)、令和4年1月10日(月)

受診予約はこちら

予約センター

03-5800-8630(直通)

受付時間

患者さんからの受診予約 10:00~17:00
医療機関からの受診予約 9:00~18:00

(いずれも土・日・祝・12/29~1/3を除く)